

ユニバーサルデザインを考慮した都市公園における高齢者の利用実態とニーズ



H97083 深谷 伸之
担当教員 岩倉 成志

【1. はじめに】

我が日本の高齢化は今後急速に進展し、あと4年で全世界でもいまだ類を見ない**超高齢社会**(高齢化率21%以上)が到来されると言われる。これに向け国土交通省(旧:建設省など)でも「**ハートビル法**」や「**生活福祉空間づくり大綱**」、さらに昨年11月15日に「**交通バリアフリー法**」を策定するなど、北欧や米国に比べて30年ほど遅れての小さな1歩が踏み出された。なお、数年前から児童公園の名称が街区公園に変更されるなど、住区基幹公園での**ユニバーサルデザイン**(様々な世代に対応したデザイン)が求められている。しかし、住区基幹公園での高齢者の利用を分析した研究は数少なく、また「**敬老公園**・**シルバー公園**」なるものでの高齢者・障害者の公園利用もいまだ少ない状態にあり、ニーズが十分把握できていないためだと考えられる。

このため本研究では高齢者の的確なニーズと公園利用の実態を知り、ひいては万人の利用者に配慮した公園整備のあり方を考える上での資料を得ることを目的とする。そのため、本研究では大きく3つの課題を設定し、それぞれ、行動観察、アンケート調査、ヒアリング・面接調査などから高齢者のニーズを適確に把握する。

【2. 課題その1: 高齢者の公園行動の空間的・時間的傾向把握】

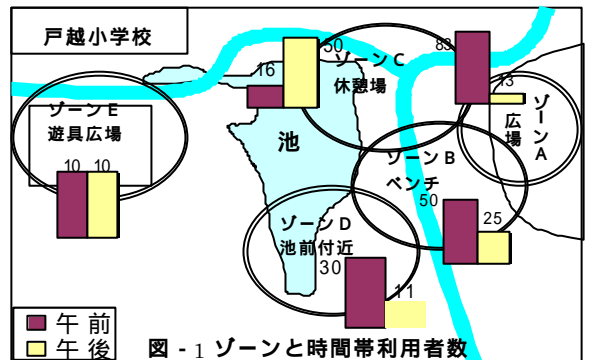
1. 調査概要

まず調査対象として、区役所のヒアリングから品川区の中でも高齢者が普段多く集まり、広場、森林、水際池・滝等、適度な空間構成のある戸越公園を選定した。戸越公園内の高齢者が集中して集うzoneをA~Eの5つとし、12月2日の午前10時から午後3時30分までを30分おきに合計7回にわたり、まさにその時刻に全ての高齢者(本研究では便宜的に50歳以上を高齢者と呼ぶこととする。)がとっていた行動を調査し、記録した。この調査を基に、空間の物理的性質と高齢者の行動との関係を検討するため、戸越公園の平面図に行動をプロットした**高齢者利用行動マップ**を作成した。

2. 分析結果

観察の結果から、行動は「休憩」「対話」「運動」「動物・自然に触れる」「観察」「掃除」の6タイプに分類した。

散策など自然と触れ合える憩いの場やベンチなどの休憩施設は、高齢者が集まりやすく、ゾーンをつくるような形で簡単なcommunityが形成される。また、午前と午後の人数の合計を視覚的に表わしたもの(図

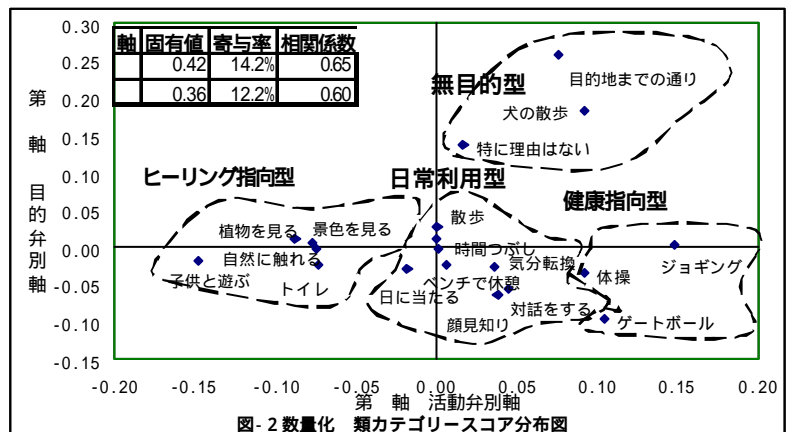


1)から、広場や池周辺は午前中、休憩場は午後それぞれ高齢者が集まっているのが分かる。これより高齢者が時間帯によっても利用を変えていると言える。

【3. 課題その2: 利用特性の構造的把握】

1. 調査概要

戸越公園の高齢者の74人にインタビューし、その結果を定量的に把握する為、来園目的(複数回答)18項目に対して、**数量化理論 類**を用いてグループ分類することを試みた。この結果、軸まで抽出し、各軸の組み合わせにより意味空間の解釈しやすいことから、第



軸活動弁別軸を横軸に取り第2軸目的弁別軸を縦軸にとることとした。

2. 分析結果

類型：日常利用型

来園頻度で「ほぼ毎日」、利用時間で「15分未満」という項目が多い。

類型：健康指向型

この項目では70代のような後半の高齢者が多かった。来園頻度は「ほぼ毎日」、利用時間では「30分以内」の利用の人が平均より高かった。

類型：ヒーリング指向型

利用時間で「1時間程度」の利用者が多かった。特筆すべきは満足度が4つの分類の中でも87.5%と一番高い数字となったことである。

類型：無目的型

性別では「女性」、交通手段では「徒歩」、頻度に関しては「ほぼ毎日」、人数では「1人」、不便さでは「感じない」選択がそれぞれ多かったという特徴が挙げられる。

【4. 課題その：高齢者において多様でかつ個性的なニーズの把握】

1. 調査概要

既住の論文などでは、公園利用者の意識分析が数多く行われているが、統計的に平均的なニーズを分析しているため詳細なニーズ、サイレント・

マジョリティの意見などは把握されにくかった。この課題に対して本研究は、戸越公園の来園者とシルバーセンター来訪者に「どんな公園が欲しいか」というインタビュー調査を行った。回答数はそれぞれ74人中61人(82.4%)、74人中30人(40.5%)であった。

2. 分析結果

シルバーセンターでは、「公園に関心がない」、「公園が好きではない」などの意見もあり、積極的な意見が少なかったが、「中でも足腰が悪く外にもあまり出かけない」などの理由から「公園へのアクセスをやすくしてほしい」、「階段を少なくして欲しいなど」といった物理的障害に対する意見が目立った。また分析はKJ法で、「全体での構造化」「年齢別の構造化」「対象地域別の構造化」など幾つかのアプローチを試みた。中でも「全体での構造化」では、大きく分けて「自然」「ソフト面」「デザイン」の3つに大別できた。(表 2)

【5. まとめ】

総括して今後進めるべき整備は以下のように集約できる。

3つの課題に共通して挙げられたことは、高齢者の公園に対する日常性である。表-1からも実に63.5%が日常利用型と分かった。また公園の利用目的は多岐にわたっているため、今後の整備はより柔軟で多様な整備・計画が必要である。しかし「どの公園もワンパターンでつまらない」という住民の声に過敏に反応するあまり「斬新な公園」の整備に力点がかけすぎると問題があるのではないかと、なぜなら公園の個性化は住民との関わりで培われる面もあるからだ。いわゆる多面性だと思う。つまり設計者の感覚で多様化するのではなく、利用者がある種の事業者となって、異なった価値観同士が1つの公園を具現化でき、互いのネットワークを構築できる公園を私は提案したい。

表 1 4 類型別属性及び活動目的

性別	日常利用		健康指向		ヒーリング		無目的		合計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
男	33	70.2	4	80.0	13	81.3	1	16.7	51(68.9)
女	14	29.8	1	20.0	3	18.8	5	83.3	23(31.1)
年齢	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	合計
40-49	1	2.1	0	0	0	0	0	0	1(1.4)
50-54	4	8.5	0	0	4	25.0	0	0	8(10.8)
55-59	2	4.3	0	0	2	12.5	0	0	4(5.4)
60-64	4	8.5	1	20.0	4	25.0	0	0	9(12.2)
65-69	7	14.9	0	0	2	12.5	1	16.7	10(13.5)
70-74	9	19.1	2	40.0	2	12.5	1	16.7	14(18.9)
75-79	12	25.5	2	40.0	2	12.5	1	16.7	17(23.0)
80+	8	17.0	0	0	0	0	3	50.0	11(14.9)
頻度	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	合計
年数回	4	8.5	1	20.0	0	0	0	0	5(6.8)
月2回	4	8.5	0	0	1	6.3	2	33.3	7(9.5)
週1回	4	8.5	0	0	2	12.5	0	0	6(8.1)
週2回	6	12.8	0	0	4	25.0	0	0	10(13.5)
ほぼ毎日	28	59.6	4	80.0	6	37.5	4	66.7	42(56.8)
初めて	1	2.1	0	0	3	18.8	0	0	4(5.4)
利用時間	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	合計
2時間以上	12	25.5	1	20.0	1	6.3	0	0	14(18.9)
1時間30分	10	21.3	0	0	2	12.5	0	0	12(16.2)
1時間	12	25.5	1	20.0	7	43.8	0	0	20(27.0)
30分	11	23.4	3	60.0	4	25.0	0	0	18(24.3)
15分以下	2	4.3	0	0	2	12.5	6	100.0	10(13.5)
満足感	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	合計
満足する	37	78.7	4	80.0	14	87.5	4	66.7	59(79.7)
満足しない	10	21.3	2	40.0	2	12.5	2	33.3	15(20.3)
来園目的	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	合計
散歩	23	48.9	2	40.0	7	43.8	4	66.7	36(48.6)
犬の散歩	1	2.1	1	20.0	1	6.3	3	50.0	6(8.1)
景色を見る	12	25.5	0	0	12	75.0	0	0	24(32.4)
植物に触れる	5	10.6	1	20.0	6	37.5	0	0	12(16.2)
自然に触れる	11	23.4	1	20.0	11	68.8	0	0	23(31.1)
子供と遊ぶ	2	4.3	0	0	4	25.0	0	0	6(8.1)
ベンチで休む	23	48.9	0	0	2	12.5	0	0	25(33.8)
気分転換	23	48.9	3	60.0	2	12.5	0	0	28(37.8)
トイレ	8	17.0	0	0	4	25.0	0	0	12(16.2)
通リ道	0	0	0	0	0	0	4	66.7	4(5.4)
ジョギング	3	6.4	2	40.0	0	0	0	0	5(6.8)
体操	10	21.3	3	60.0	0	0	0	0	13(17.6)
ゲートボール	6	12.8	0	0	0	0	0	0	6(8.1)
特になし	5	10.6	0	0	3	18.8	4	66.7	12(16.2)
顔見知りの人	19	40.4	0	0	1	6.3	0	0	20(27.0)
対話をする	19	40.4	0	0	0	0	0	0	19(25.7)
時間つぶし	15	31.9	0	0	2	12.5	0	0	17(23.0)
日にあたる	12	25.5	1	20.0	0	0	0	0	13(17.6)

表-2 インタビュー概要

	50代	60代	70代以上
自然	夏は森林浴、冬は日光浴のできる公園	日の多く当たる	紅葉のきれいな
	様々な実用を考えた親水公園	「森養浴」と「海養浴」のできる公園	さくらが一面に広がる
	木陰で休める公園	自然体験のできる遊歩道公園	自然のある
	静寂で花の美しさや香りがあり森林浴も	せせらぎと木立りの公園	緑の豊かな
	個性ある果樹公園	街路樹による休養林公園	花見の時期に大きな木がある公園
	落ち葉と野草と噴水の公園	至極上がりた竹林公園	かなどの虫がいない公園
	凸凹など変化のとんだ公園	コンパクトな庭園のある	亀、川鯉、蛙、めだか、など虫の多い
	いるいるな鳥がいて、鳥の音などが聞こえる公園	空気がきれい、自然豊かな公園	虫の住んでいる
	四季折々のある	川や海が近くにあり見晴らしがよい	農作物を作り育てられる公園
	松、紅葉、桜、梅など大きな木が多い	池があつて釣りができる公園	
ソフト面	緑、水、遊具、生き物のそろう公園	川、池、鴨がいる	
	歳時記を生み出す自然環境的な公園	ヒノキにおいのある	
	四季それぞれの花のある公園	実のなる木を多く植えて欲しい。	
	里山そのまま会員制の自然公園へ	大きな木のある	
	小川のある自然公園	人工的でない、手の加えてない	
	自然を中心にした近自然型公園	池、湧き水のある	
		植物・動物・昆虫がたくさんいる	
		動物の多い	
		たまには雑草だらけの公園	
		自然の息吹が感じられる公園	
デザイン	住民主体の緑の公園	安心してのんびり過ごせる公園	ほっとする
	自分たちのものという意識をもてる公園	安らぎの心の通う公園	音の雰囲気が残った
	避難場所を兼ねた憩いの公園	子供が少なく静かな公園	からすがよく静かな公園
	市民参加で花壇、植樹の楽しめる公園	管理人がしっかりと掃除をしている	音の雰囲気が残った
	今までの「見る公園」から使える公園へ	街の中に手を加えない公園	夏には涼しい
	心身を癒せる公園	公園が利用者の共有財産である	公園はつまらない。もっと楽しめる施設
	今ある公園を大事に清潔にして欲しい	老人と幼児に優しい公園	施設がきれいな
	のんびり、どかな	植物の名を明記したプレートがある	公園を案内してくれる人がいて欲しい
		静かな公園	リハビリのできる盲人公園
		誰でも自由に樹木の苗を植えていい	法制化で全国に憩いの広場のある公園
立地条件	図書館のある公園	犬の公衆トイレと熟年広場	トイレの多い
	テニールつきのベンチも背もたれをつけ	ピラミッド型森林公園	アップダウンのある
	凸凹など変化のとんだ公園	運動場と休憩の広場が分かれてる	公園面積拡大と施設の拡充を行って欲しい
	景色を楽しむ歩行者専用(バイクなどを)	家の近くに大きな公園	平らな広場
	ドライバー用の車専用公園	機能性を富む公園を設置して欲しい	階段などあまり多くない公園
	創意工夫して個性のある公園	砂場に日よけをつけて欲しい。	広くてきれいな公園
	遊びを工夫して創造する場の公園	段差の少ない	舗装がインターロッキングだと車椅子が
	避難場所を兼ねた憩いの公園	スロープのある散歩道	屋根つきの休憩ベンチ
	池にボートが浮かんでいる	雨の日でも遊べる部屋がある	歴史観・博物館などがある公園
	地球環境を考えた公園設計		団地の中に散歩コースがあるような公園
狭い公園をなくす		車椅子の通りやすい出入口	
遊具等の安全対策のなされた公園		ごみ箱をベンチの近くにおいて欲しい	
遊具などを排除した野原の公園		広場があつて体操ができる公園	
		段差が全くない	
		地面が平坦	
		商店街が近くにある	
海のアオアシとなる海浜公園	自転車でもいける範囲に公園を	山下公園のような港公園	
都市の中に森林公園	寺の中にある	外国のように音楽堂で野外演奏ができる	
	特に考えない	家から遠いのであまり行かない	
		住宅地に植林のある	